

# 「日本文化」と「中国文化」のイメージ比較研究

## ——日本人のマインドマップ調査による検討——

許 恵 玉

### 1. 研究の目的と意義

円滑な異文化コミュニケーションを行うためには、自文化と他文化に対してどのようなイメージを持っているかを確認し、その中で、お互いの共通点、文化の違い、ズレなどを意識しながら、相互理解を進めていくことが重要である。

渡辺（1995）が指摘しているように異文化コミュニケーションにおいて自分を知ることはその第一歩であり、己を知っていれば、相手との関係でどこに期待のズレや齟齬が生じるか突き止めることにより適切な対応策も考えられる。

本調査は10-20（若年層）代の日本人を対象に中国人とのコミュニケーションにおいて、自文化と他文化にどのようなイメージを持っているかを調査するものである。そこから両者の共通点と相違点を洗い出すことが可能となり、日本人と中国人のスムーズな異文化コミュニケーションのための一助となれば幸いである。

### 2. 先行研究

#### 2-1. 台湾の日系企業の経済活動の接触場面からの調査

工藤（2007）は大学生たちの将来の職場の一つとなる経済活動の場に焦点を絞り、そこで展開される接触場面で発生しているコミュニケーション問題及び共生に向けた意識調査から学生たちに求められる能力の具体像を探る目的でアンケート調査を行った。調査は、2004年2月から4月にかけて台湾にある日系企業及び日本と取引のある企業の社員を対象とした。

調査の結果、日本人の「曖昧性」「几帳面」「こだわりすぎる」という台湾人からの記述が得られ、日本人からは台湾人の自己主張が強いこと、台湾人の仕事より家庭を優先することなどの記述得られ、本研究の「日本文化」と「中国文化」のイメージ調査の参考となった。台湾の人々は中国大陸の福建省、広東省から移住した人が多く、本研究テーマの「中国文化」と密接な関係を持っている。

#### 2-2. 中国の学生から見た日本のイメージ

崎田（2004）は、中国の青年や学生が、日本および日本人に対して、いかなるイメージを持っているのか、またもし期待するとすれば、日本という国に何を期待するのか、二十歳前後の多感な学生たちは、現時点でどう思っているのかについて調査した。

調査の結果は、「日本人の繊細さとあいまいに聞こえる言葉が印象的である」「日本人はみんな素直、正直な人です。そして、日本人の仕事に対する熱心さはいつも感心します」「日本人

は礼儀正しく、丁寧です」などプラスイメージが中心であった。崎田（2004）の調査は、中国の青年や学生を対象にしたものであり、日本人の学生を対象とした調査ではなかった。

本報告は日本人がそれぞれ「日本文化」と「中国文化」にどのようなイメージを持っているかを調査したものである。

### 3. 研究方法としてのマインドマップについて

トニー・ブザン（1993=1996）は「マインドマップとは『心の地図』の意味であり、もっと厳密に言えば『頭脳の地図を描く』ということである。（中略）具体的には、一枚の紙の中心に、テーマ（あるいはアイデア）を描いて、それに関連するさまざまな情報や発想やアイデアを、枝を伸ばすように、放射状に次々と描（書）いていく方法である」と述べている。

マインドマップは中心概念から、次々と連想する意味地図を作成する機能を持っている。本報告は「日本文化」と「中国文化」に関するイメージを調査する方法としてマインドマップを採用した。

「日本文化」と「中国文化」をテーマとしたマインドマップ調査表（別添資料参照）を日本人に配布し、連想したことを自由に記述する方法を取った。回収したデータを類語検索大辞典『日本語大シソーラス』（2003）を参考にしながら分類し、独自の集計、分析を行った。シソーラス（Thesaurus）とは、言葉のIR（information retrievalの略語で情報検索の意味）であり、頭に浮かんだ或るアイデア・センス・イメージから、それを表現する最適な語句に辿り着く辞書である（『日本語大シソーラス—類語検索大辞典』より）。

## 4. マインドマップ調査の集計結果

### 4-1. マインドマップ調査の概要

2007年7月～2007年11月にかけて、マインドマップ調査を実施した。有効回答者は103名であった。本調査の対象者は日本人の10-20代のみにし、国籍、性別、職業が無記入のものは無効回答にした。有効回答103名の性別、年代別、職業別の内訳は次のとおりである。

〔性別〕 男性：34名 女性：69名 〔年代別〕 10代：29名 20代：74名

〔職業別〕 学生：94名 社会人：9名

### 4-2. 「日本文化」について —（ ）内は出現度数を示す

「日本文化」を中心概念として得られた記述は数多く、伝統文化の「歌舞伎」(12)、「能」(9)、政治関係の「資本主義」(3)、経済関係の「先進国」(10)、「発達国」(9)、また、宗教 (18)、歴史 (14)、食文化の「日本料理」(2)に関連する記述などが得られたが、本研究では、その内の人柄に関する記述のみを分析対象とした。

#### 4-2-1. 「日本文化」の人柄に関する記述

表現はそれぞれであるが、表現しようとする意味が類似していると思われるものは一まとまりにし、以下に示す。( ) は出現度数を示し、一まとまりの合計を [ ] で示す。なお、一まとまりにならなく、出現度数が1のものはその他に分類した。

- A. 和 (13)、平和主義 (2)、事なかれ主義 (2)、和を大切に、影響されやすい、意見が流されやすい、みんな同じに、周りに合わせる、場の空気を大事にする、もめるのがいやだ、人目を気にする、従順、強い人につき従う [27]
- B. 礼儀 (11)、礼儀正しい (5)、お礼 (2)、礼儀作法、礼節を重んじる、お辞儀 [21]
- C. 自己主張が弱い (9)、自己主張をしない (3)、自分の主張が少ない (2)、自己主張が苦手、自分の意見を述べるのが苦手、自分の考えを言わない、自己主義が弱い [18]
- D. 保守的 (5)、消極的 (4)、内向的 (4)、控えめ (2)、引っ込みがち、引っ込み思案 [17]
- E. おとなしい (6)、おしとやか (4)、奥ゆかしい (2)、落ち着き、物静か、大和撫子 [15]
- F. 建前 (8)、本音と建前 (3)、建前を重んじる、本音 [13]
- G. 繊細 (5)、器用 (4)、細かい (3)、几帳面 [13]
- H. 謙虚 (5)、謙遜する (3)、丁寧 (2)、卑屈、こしひくい [12]
- I. 勤勉 (8)、働き者、仕事に熱心、職人 [11]
- J. 協調性 (2)、協調性重視 (2)、協調的 (2)、協調性を大切に、協調性がある、同調性が強い (異質ものを嫌う) [9]
- K. 集団行動を好む (2)、集団主義 (2)、集団性、集団意識、集団行動、集会的、集団 [9]
- L. 遠慮 (3)、あいまいな言い回し、遠回り表現、あいまい、婉曲、「NO」と言えない [8]
- M. 個性がない (3)、個性が薄い、個性があまりない、画一化社会、個性的 [7]
- N. 真面目 (4)、正直、誠実 [6]      O. 愛国心がない (3)、愛国心がうすい [4]
- P. 地味 (2)、質素 [3]      Q. 時間に厳しい (2)、規律を重んじる [3]
- R. その他：飽きっぽい、新しいものが好き、被害者思想、責任転嫁、適当な人が多い、優柔不断、かたい、夢がない、情緒的、真・美・善、雅、親切、恩、恥、金持ち [15]

「日本文化」の中で人柄を表した語の延べ語数は211語で、異なり語数は103語であった。出現度数が一番多かった語とカテゴリーは「和」であった。黄 (2006) は「2003年には日本人の一番好きな言葉ランキングの第一位に『和』が選ばれた」としている。「和」に次いで出現度数が多かったのは「礼儀」で11、「自己主張が弱い」が9、「建前」「勤勉」が各々8であった。

カテゴリー別に見るとAグループの「和」を表す表現に次いでBグループの「礼儀」をキーワードとした表現が多く、その次は、Cグループの「自己主張」をキーワードとした表現であった。

#### 4-2-2. 「日本文化」の人柄に関する分析

本調査で、「日本文化」の人柄に関して数多くの記述が得られたが、以下のようにカテゴリー分けし、分析した。表の右上のnは全回答者数を示す。

##### 4-2-2 (1). 和

表現は異なるが、「和」の意味を表していると考えられたものはすべて「和」のカテゴリーにまとめて以下の表1に示す。なお、記述の中で「人に譲る」「制服」が一回ずつ得られたが、関連語として扱い、【関】で示す。

本調査では、「自己主張」「おとなしい」「本音と建前」「協調」「集団」「遠慮」をキーワード

とした「和」に関する表現がもっとも多く、全体の47.9%を占めている。これから「大和民族」と言われている日本人が「和」をもっとも好んでいることが分かる。

表1. 和に関係する表現

(n=103)

A	和 (13)、平和主義 (2)、事なかれ主義 (2)、和を大切にする、影響されやすい、意見が流されやすい、みんな同じに、周りに合わせる、場の空気を大事にする、もめるのがいやだ、人目を気にする、従順、強い人につき従う	27
C	自己主張が弱い (9)、自己主張をしない (3)、自分の主張が少ない (2)、自己主張が苦手、自分の意見を述べるのが苦手、自分の考えを言わない、自己主義が弱い	18
E	おとなしい (6)、おしとやか (4)、奥ゆかしい (2)、落ち着き、物静か、大和撫子【関】人に譲る	16
F	建前 (8)、本音と建前 (3)、建前を重んじる、本音	13
K	集団行動を好む (2)、集団主義 (2)、集団性、集団意識、集団行動、集会的、集団【関】制服	10
J	協調性 (2)、協調性重視 (2)、協調的 (2)、協調性を大切にする、協調性がある、同調性が強い (異質ものを嫌う)	9
L	遠慮 (3)、あいまいな言い回し、遠回り表現、あいまい、婉曲、「NO」と言えない	8

回答者103名のうち、「和」に関係する表現の出現度数は101であった。聖徳太子は憲法17条の冒頭に「和を以て貴しとなす」を書き入れており、また林 (2008) は「和を以て貴しとなす」を、本来の意味からはずれて「調和することを貴い目標とする」と解釈し、「伝統的な日本文化では『調和』を第一の価値として、その『調和』に逆らうこと、『横並び』を乱すことを罪悪視する傾向が強い」と述べている。

「和」に関連する表現の中で、Cグループの「自己主張」に関係する表現の出現度数が18で、「和」の表現の18%を占めている。この結果から日本人は自民族に対して「自己主張は弱い」というイメージを持っていることが分かる。千葉 (1988) は『『自己主張』という言葉が、本来の『自分自身の内から訴えるもの』を離れて『他人のことは顧ず自分のことだけを訴える』とか『責任は十分に果たさず自分の権利だけを主張する』ことを指す』と述べている。このことから分かるように「自己主張」という言葉が日本ではイメージが悪かったようである。

Eグループの「おとなしい」をキーワードとした表現は16得られた。日本社会では「自己主張」よりは「沈黙は金」ということが好まれ、「おとなしい」イメージが広がっているのではないと思われる。自己主張せず、言わず語らずのうちにお互いの気持ちが分かり合う「以心伝心」が日本社会の一つの特徴だと言えるだろう。日本語の中で、よく省略表現、婉曲表現が見られるが、それも「以心伝心」の特徴ではないだろうか。

奥村 (1982) は「日本語の省略表現はしゃべるまいとする閉鎖性の面から説明できるし、閉鎖性をさらに分析すると、そこには『沈黙は金、雄弁は銀』という奥ゆかしさの倫理や『もの言えは唇寒し』という自衛思想などが考えられる」としている。

本調査で、Fグループのように「本音と建前」などの表現もかなり得られた。日本社会では相手への気持ちを思いやり、場合によって本音と建前を使い分ける傾向がある。本調査では特に「建前」「建前を重んじる」などの記述が多く見られ、出現度数が「本音」より多かった。

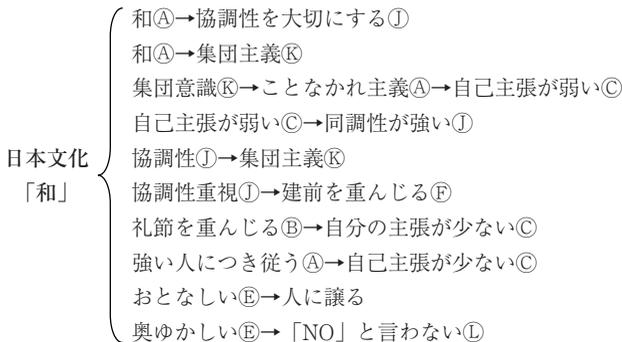
このことから、日本人の中では、「本音」より「建前」のほうが強く意識されていることが分かる。

Jグループは「集団主義」、Kグループは「協調的」に関する表現であるが、守崎(2002)は「日本人の特性として示される『相互協調的自己観』『集団主義』的傾向を持つ人は他者との相互作用において、直接的な対立や自己主張を避けようとして、その場の状況や他者の期待に自分の考えや行動を合わせる『同調』という自己呈示行動を多用する傾向にある」としている。

本調査では、「制服」という記述が一回得られたが、集団から連想されたと思われる。池田(1995)は「日本人はいわばアイデンティティ確立の訓練期間に、常に学校の制服を通して集団への同一化を図っているといえるだろう」と述べている。つまり、日本では学校の教育場面から企業活動に至るまで「制服」に象徴される集団意識が注ぎ込まれていると言える。

本調査ではLグループの「曖昧な表現」とか「NOと言わない」のような記述も得られたが、これも日本人の「和」の文化を重んじる特徴だと言える。日本人との接触において、「曖昧な表現」で困っている中国人の声はよく耳にする。

「NO」と言わない日本人ということが話題になったことがある。水谷(1995)は「目上の人、距離をおかなければならないような人に対して『いいえ』を使うことは通常の関係、状態ではなく、それを使うことによって、相手の気持ちや意志を尊重しないということを宣言する役割を果たすことが多く、いさかいや口論のきっかけとなる場合が少なくない」としている。



本調査はマインドマップを用いたため、上記のような記述者からの様々な「和」に関連する連想も見られた。○は各自所属しているグループを示す。上記の連想から、各グループの間に直接的或いは間接的に関連していることが分かる。

#### 4-2-2 (2). 丁重

「和」の表現に次いで多かったのは「礼儀」と「謙虚」をキーワードとした表現で、人柄の17.1%を占め、本稿では、シソーラスの分類により「丁重」のカテゴリとしてまとめる。なお、記述の中で「すみません」が2回、「つまらないものですが」が一回出現したが、本稿では丁重の関連語として扱い、【関】で示す。

表2. 丁重に関係する表現

(n=103)

B	礼儀 (11)、礼儀正しい (5)、お礼 (2)、礼儀作法、礼節を重んじる、お辞儀	21
H	謙虚 (5)、謙遜する (3)、丁寧 (2)、卑屈、こしひくい	12
【関】	すみません (2)、つまらないものですが	3

表2に示したようにBグループの「礼儀」に関する記述が21得られた。ルース・ベネディクト (1967) は「日本人は礼儀正しきの模範である」と述べている。

崎田 (2004) の調査にも中国人から見て「日本人は非常に優しいのです。みんな礼儀正しく、教養のあるような気がします」「日本人は礼儀正しく、とても丁寧です」等の記述が見られた。

池田 (1995) は「異文化間におけるコミュニケーションでは、しばしば意図されない丁寧さを欠く失礼な言い方が問題になる」と述べている。上下関係、ウチとソトの関係が敏感である日本社会においては特に言葉の丁寧さに気を配る必要があると思われる。

日本では「すみません」という表現をよく耳にするが、「すみません」は中国語の「对不起」の意味で、中国人としては謝る時の表現だと思う人が多い。しかし、日本語の「すみません」は謝る時の陳謝の意だけではなく、感謝の意を表す時にも使われる。

「すみません」が日本社会においては頻繁に使われているが、中国人にはあまり馴染みがない。木村 (2007) の調査からはアルバイトの接客場面で、留学生からの自己正当性を主張する発話、確認を求める発話などが多く見られたが、すぐ「すみません」と謝る発話は少なかったと報告している。

「丁重」に関しては下記のような連想関係が見られた。

日本文化 「丁重」	}	礼→あいさつ
		礼儀→言葉遣い
		謙虚→美徳謙虚→声が小さい
		謙遜する→つまらないものですが

上記から見られるように「謙虚」を「美徳」だと思っている日本人がいる一方、「声が小さい」のも、「謙虚」の一つの表れだと思っている日本人もいた。本調査で、「謙虚」に関する語が12出現したが、日本人とのコミュニケーションにおいては、謙虚な態度も重要なポイントだと思われる。また、「謙遜する」から「つまらないものですが」が連想された記述も得られたが、「つまらないものですが」は「贈る品物を謙遜するという語」(『広辞苑』より)とされている。中国でも品物を贈る時は「つまらないものですが」に相当する「小小意思」という表現が謙遜の決まり文句として使われている。こういうところでは日本と中国の共通点が見られた。

#### 4-2-2 (3). 勤勉

本調査で「勤勉」を表す表現を以下の表3に示す。

表3. 勤勉に関係する表現

(n=103)

I	勤勉 (8)、働き者、仕事に熱心、職人	11
N	真面目 (4)、正直、誠実	6

青山 (1970) は「日本人のみた日本人の性格」について1963年9月から11月にかけて全国150から200地点、サンプル数2250~4000人において10項目の長所と10項目の短所について調

査を行った。その長所の結果、61%が「勤勉」でトップであった。戦後、日本の経済が素早く復興したが、日本人の勤勉さと密接に関係するのではないと思われる。

Nグループの「真面目」について、林・林（2008）は、「30代・40代の男性が、働き盛りの年代で、『真面目』に働くことを期待されている」としている。

#### 4-2-2 (4). 保守的

本調査で出現した「保守的」に関する表現を以下表4に示す。

表4. 保守的に関係する表現 (n=103)

D	保守的 (5)、消極的 (4)、内向的 (4)、控えめ (2)、引っ込みがち、引っ込み思案	17
---	---	----

日本は集団意識が強く、目立つことは控える傾向がある。更に、相手への気持ちが配慮され、「建前」を大事にし、現状を変えたり、空気を読まなく、自分勝手な発言をしないことから「保守的」等の記述が得られたのではないと思われる。

#### 4-2-2 (5). 細かい

日本人は几帳面だと言われているが、本調査でも「細かい」に関する表現が得られた。

表5. 細かいに關係する表現 (n=103)

G	繊細 (5)、器用 (4)、細かい (3)、几帳面	13
---	---------------------------	----

「細かい」に関しては103名のうち、出現度数が13であった。中国社会科学院教授の高増傑は「日本文化は具体的なものに向かうというか、細かい点を重んじるという特徴がある」と述べており「これは日本人、日本民族に固有の国民性ではないか」としている（中村、1994参照）。

#### 4-2-2 (6). 個性

「個性」に関する表現を以下表6に示す。

表6. 個性に關係する表現 (n=103)

M	個性がない (3)、個性が薄い、個性があまりない、画一化社会、個性的	7
---	------------------------------------	---

本調査では、「個性がない」という記述も得られたが、逆に「個性的」という記述も得られた。日本の小中高生はそれぞれの制服、会社員は背広か制服を着ていることが多い。これも、「集団主義」の表れだと思われるが、外国人から見ると、日本人は画一的で、没個性的だと思われることもある。「個性」に関しては「遠慮→個性がうすい」という記述が得られた。この連想はおそらく、お互いに遠慮するからこそ、自己表現、自己主張しない傾向があり、そのため、個性が表れないという流れによるものであろう。

### 4-3. 「中国文化」について

第一回目のマインドマップ調査の結果、「中国文化」に関する記述があまりにも少なかったため、日本人32名に「中国文化」だけを中心概念としてアンケート調査を追加した。そのうち、

有効回答は26名で、性別、年代別、職業別の内訳は次のとおりである。

〔性別〕男性：3名 女性：23名 〔年代別〕10代：5名 20代：21名  
〔職業別〕学生：24名 社会人：2名

「中国文化」に関しては、芸術の「雑技団」(8)、政治関係の「社会主義」(9)、経済関係の「発展途上国」(10)、「経済急成長」(5)、また「万里の長城」(10)、「チャイナドレス」(12)「パンダ」(8)など中国の象徴的なものに関する記述も多く得られたが、その中から、人柄に関する記述のみを分析した。

#### 4-3-1. 「中国文化」の人柄に関する記述

第二回目の調査の記述も多くなかったため、第一回目のデータと一緒に分析することにした。合計129名の「中国文化」の人柄から得られた記述を以下に示す。

- a. 自己主張が強い (11)、自己主張 (3)、自己主張ができる、強い口調、発言力がある [17]
- b. 意志が強い (2)、勉強熱心 (2)、勉強をよくする、勉強、向上心がある、自信を持つ、出世欲、遊ぶよりも働く方が多い感じ [10]
- c. 愛国心 (4)、愛国心が強い (3)、自国愛がある、団結力、民族意識が強い [10]
- d. 豪快 (3)、おおらか (2)、小さいことにこだわらない、サバサバしている [7]
- e. 積極的 (3)、情熱的 (2)、人情がある、情が厚い [7]
- f. 大雑把 (5)、いい加減 (無責任) [6]
- g. 派手 (2)、見栄っ張り、見た目重視、栄華心 [5]
- h. YES・NOがはっきりする、意見をはっきり言う、意見をはっきり述べる、ストレート [4]
- i. 個性的、個、差 [3]      j. まじめ (2)、素直 [3]      k. わがまま、利己的 [2]
- l. 女性が強い (2) [2]      m. 家族の絆が強い (2) [2]
- n. その他:反抗、うそつき、頑固、お金にがめつい、ルールが守れない、せっかち、排他的、しつこい、怪しい、束縛、すっぴん、本音、明るい、賢い、有能、大胆、強気、自尊心が強い、誇りがある、実力主義 [20]

「中国文化」の人柄に関係する表現は、述べ語数が99語、異なり語数が65語で、全体的に日本人の中国に対するイメージの広がりが少ないということが分かる。回答者からの自由記述欄に次のような記述が見られた。

- 日本文化は自分の中で育ってきたので、よく分かるのですが、中国文化はメディアが伝えるものや日本から見た中国像などのほんの上辺だけしか知らないのだと気付きました。なので、中国文化について考えるのは難しかったです。(女性：20代)
- 中国の文化について詳しく知らないので、書けませんでした。(女性：10代)

マインドマップ上で、「自己主張が強い」との表現は17語で、全体の17.2%を占め、次に多かつ

たのは「大雑把」で出現度数が5、次が「愛国心」で出現度数が4であった。

#### 4-3-2. 「中国文化」の人柄に関する分析

##### 4-3-2 (1). 自己主張

本調査では、「自己主張」に関係する表現がもっとも多く、人柄の26.2%を占めている。「自己主張」に関係する表現を以下の表7に示す。

表7. 自己主張に関する表現

(n=129)

a	自己主張が強い (11)、自己主張 (3)、自己主張ができる、強い口調、発言力がある	17
h	YES・NOがはっきりする、意見をはっきり言う、意見をはっきり述べる、ストレート	4
i	個性的、個、差	3
k	わがまま、利己的	2

「同調」が望ましいとされている「日本文化」に対して、中国では「個人主義」と言われているように「みんな同じ」よりは「個」を重要視する傾向が見られる。王 (2000) は「中国では『個性のある人』は最高の褒め言葉であり、『個性がない』ものはもっとも価値がないものとされ、芸術作品でも学術論文でも人間でも同じものなのである」と述べている。個性を発揮するため、中国社会では「自己主張」がより期待されている。

hグループには「意見をはっきりいう」という表現が出現したが、李 (2005) は「中国人はまだ日本人ほど均質でレベルの高い仕事に対するモラル、意識が共有されていません。しかし中国人には『打開天窓説亮話 (心を開いて全てをはっきりという)』という率直な面があります」と述べている。中国では、婉曲的な表現よりは、耳が痛いことでも、ストレートに伝えるほうが、誠意があると考える傾向がある。

数少なかったが、kグループの「わがまま」「利己的」というマイナス表現が見られた。日本では、相手への思いやりを考慮して、自分の感情を抑えるのに対して、中国人の「自己主張をすること」「物事をはっきり言う」ことが日本人の中では「わがまま」「利己的」と思われるかもしれない。

本マインドマップ調査で、「自己主張が強い」からプラス表現の「分かりやすい」が連想された反面、マイナス表現の「あつかましい」も連想された。以心伝心よりは自分の考えをしっかりと述べる方が分かりやすいのは間違いないだろう。しかし、分かりやすい反面、自分の意見を押し付けるイメージがあるから、「あつかましい」という表現も出現したと思われる。

また「自我が強い」から「発言力がある」が連想されたが、言い換えれば「自己主張できる」ということであろう。

##### 4-3-2 (2). 大雑把

「中国文化」から連想されたものとして「大雑把」が5回出現した。関連したイメージの表現としてマイナス表現の「いい加減」が得られた一方、プラス表現の「おおらか」などのdグループのような表現も得られた。

表8. 大雑把に関係する表現

(n=129)

d	豪快 (3)、おおらか (2)、小さいことにこだわらない、サバサバしている	7
f	大雑把 (5)、いい加減 (無責任)	6

日本人から見ると、中国人が大雑把というイメージに対して、中国人からは日本人が几帳面すぎるイメージがあるようである。大崎 (2000) の調査では、中国人が日本人の何事にも几帳面すぎることに戸惑い、「清濁合わせ飲むことができない。世界的観点からすると几帳面すぎるかもしれない」と述べている。

また、工藤 (2007) の調査にも「日本人は細かすぎてくどい」「物事に拘りすぎて無駄が多い」などの台湾人の記述が見られた。

「大雑把」を他の視点から見れば、「小さいことにこだわらなく、大らか」とも解釈できるだろう。向井 (2008) は、マイナス性格表現をプラス性格表現に言い換える性格リフレーミング辞書を作成したが、その中、「大雑把」を「大らか、寛大」「細かいことにこだわらない」と言い換えられることを示している (【注1】)。

#### 4-3-2 (3). 愛国心

「愛国心」に関係する表現を以下の表9に示す。「愛国心」の関連語として「反日デモ」「反日運動」が見られた。

表9. 愛国心に関係する表現

(n=129)

c	愛国心 (4)、愛国心が強い (3)、自国愛がある、団結力、民族意識が強い	10
【関】	反日デモ、反日運動	2

歴史教科書問題や靖国神社の参拝などに対する反日デモ、オリンピックの聖火リレーなどから、日本人は中国人が「愛国心が強い」との印象を持っているのであろう。

「愛国心」というのは、いろんな面で表れ、王 (2005) は「中国人にとっての『愛国心』は、自分が中国人であることを示すアイデンティティの一つである」と述べている。更に王 (2005) は「『愛国』という言葉に関しては、そこまでの大きな違いはないにしても、日中では相当なニュアンスの違いがあると私は感じている。日本よりも中国でのほうが、かなり重い言葉だと思われる」としている。

#### 4-3-2 (4). 向上心

本調査で「勉強熱心」などの記述もかなり得られたが、「向上心」とまとめ、表10に示す。

表10. 向上心に関係する表現

(n=129)

b	意志が強い (2)、勉強熱心 (2)、勉強をよくする、勉強、向上心がある、自信を持つ、出世欲、遊ぶよりも働く方が多い感じ	10
---	--	----

本調査は、主に学生を対象に行ったため、中国人留学生からのイメージが強く、「勉強熱心」「向上心がある」等の記述が出現したと思われる。留学生は、日本語母語話者より集中して授業を受けなければ聞き取りにくいという背景もあるだろう。

## 4-3-2 (5). 情

以下 e、m グループを「情」とまとめて次の表11に示す。「情」に関しては129名のうち、出現度数が9であった。

表11. 情に関係する表現

(n=129)

e	積極的 (3)、情熱的 (2)、人情がある、情が厚い	7
m	家族の絆が強い (2)	2

李 (2005) は「『情』は中国人の精神性の重要なカギです。ある意味で中国人はとても単純。ビジネスライクな雇用、職務の上の関係だけではなく、一人ひとりに対する直接的な関係づくり、人間的な感情の交流が、その人自身の仕事の姿勢、主体性や積極性に大きく関わってくる」と述べ、続けて中国人は「家族的な人間関係を何よりも大切にしている人々です。情としての関係、信頼で結び合うことができれば何事をも乗り越えられる」と述べている。

工藤 (2007) も「台湾人が仕事より家庭を大事にすることが多い」という結果を示しており、本調査の「家族の絆が強い」との記述も中国人の「情」を大切にしていることを示している。

## 5. 考察

今回の日本人の「日本文化」と「中国文化」に対するイメージを比較し、表12にまとめた。

表12. 「日本文化」と「中国文化」の比較

日本文化		中国文化	
A	和をキーワードとした表現	i	個性的、個、差
J			
K			
C	自己主張が弱い	a	自己主張が強い
L	曖昧な表現	h	物事ははっきりいう
G	細かい	f	大雑把
D	消極的	e	積極的、情熱的

表12に示したように今回のマインドマップ調査で、「日本文化」は和を大事にする文化で、相手への思いやり、配慮を考慮し、自己主張があまり好まれていないことが分かる。これに対して「中国文化」としては「個性」や「差」が好まれており、自分の意見、気持ちなどをはっきり表現する傾向が強いことが日本人に意識されていることが分かる。

迎 (2008) は語のイメージに着目し、52語について大学生100人にアンケート調査を行ったが、本マインドマップ調査とは異なる結果が見られた。語のイメージ調査の中、「言いたいことを言う」に対する結果はプラスイメージの回答者数が36で、ニュートラルが40、マイナスイメージが24で、プラス寄りのニュートラルイメージである。一方「言うのをためらう」はプラスイメージが3、ニュートラルが40、マイナスイメージが53で一番多く、全体のイメージはマイナスかニュートラルであった。この結果から日本社会の若年層の中では「自己主張をする」ことがプラスイメージの方向に変わってきていると言える。

一方、本マインドマップ調査では、「おとなしい」などの表現もかなり得られたが、これに対しても、迎（2008）の「おとなしい」に対するイメージ調査結果は、プラスイメージが16で、ニュートラルが55、マイナスイメージが29で、マイナス寄りのニュートラルイメージであった。この結果から分かるように「おとなしい」のイメージも日本では、常によいイメージとしての価値観が固定されているわけではないことが分かる。

この二つの結果に対して、迎（2008）は単なる語のイメージに着目して調査し、特に中国文化などは意識していないからではないかと思われる。本マインドマップ調査は「日本文化」と「中国文化」を同時に中心概念としたため、両国の文化が対比的イメージになり、「中国文化」に比べ、「日本文化」は、「自己主張をしない」「謙虚な」「おとなしい」イメージが広がっており、迎（2008）の調査結果と異なったのではないかと思われる。

本調査では、また「日本文化」からは「和」、「中国文化」からは「個」という表現が得られたが、林（2007）は「場の倫理」と「個の倫理」について論じ、「日本社会にはいまだに『場の倫理』派が多数を占め、中国は『個の倫理』に立脚している」と述べている。また、「和」を重んじる「『場の倫理』派は紛争回避型で、具体的な規約や内規の改正が議論されるような場合においても、あれこれ議論することを避け、『概ね主旨には賛成』を取り付けようとする」と述べ、これに対して「『個の倫理』派は『言語的規約』や内規に立ち戻って、紛争を処理しようと考え。そこで、様々な解釈が可能で曖昧な記述は避けたい意識が働く」と述べている。

曖昧な記述を避けたい意識から、本調査の「中国文化」のhグループの「物事をはっきりいう」などの記述が出現したと思われる。日本では、「以心伝心」でお互いの気持ちが伝わるし、「高コンテキスト文化」とも言われているように伝えようとする情報を文脈（コンテキスト）で読み取ることができるのに対し、56民族を所有している中国では、自分の気持ちをはっきり表現しないと、相互理解が難しい。自分の気持ちをお互いに積極的に伝え合うことによって「中国文化」のeグループのような「積極的」「情熱的」などの記述が得られたのではないかと思われる。

「日本文化」のGグループから「細かい」等の記述が出現したことに対して「中国文化」からは「大雑把」などの記述が得られた。大陸文化と言われている中国では、小さいことに拘らない一方、日本人と比べ、「大雑把」な人柄の特徴を持つ傾向が見られる。

## 6. 今後の課題

本調査で、「日本文化」に対するイメージ、つまり日本人が「自文化」に対するイメージはある程度認識できたが、「中国文化」に対するイメージは少なく、まとまりのない記述が多かった。「中国文化」に対するイメージが少なかったのは、日本人の中国文化に関する情報や知識が少なく関心が薄いということだけでなく、たとえ関心を持っていたとしても、中国文化が地域によって異なったイメージを有しており、とらえどころがないという事情が背景にあると思われる。今後の課題として、中国人の「日本文化」と「中国文化」に対するイメージを調査し、比較検討していきたいと思う。

【注1】 向井（2008）は、「物事の枠組み（フレーム）を外し、別の枠組みで見ることで、意味を変えることを心理学ではリフレーミング（reframing）」と解説している。

## 【参考文献】

- 青山博次郎 (1970) 「日本人・人種」統計数理研究所国民性調査委員会『日本人の国民性』至誠堂
- 池田 裕 (1995) 「丁寧さ」「制服とアイデンティティ」水谷修・佐々木端枝・細川英雄・池田裕『日本事情ハンドブック』大修館書店
- 奥村三雄 (1982) 「日本語と日本人」『日本人—その思想と行動—』九州大学出版会
- 大崎正瑠 (2000) 『日中異文化コミュニケーションに向けて (2)』15号 コミュニケーション学会 pp.86-117
- 王 少鋒 (2000) 『日・韓・中三国の比較文化論—その同質性と異質性について—』明石書店
- 王 敏 (2005) 『中国人の愛国心—日本人とは違う5つの思考回路—』PHP研究所
- 木村直美 (2008) 「接客場面における日本語の語用論について—中国人、韓国人留学生のロールプレイによる談話分析」山口大学人文学部国語国文学会発行『山口国文』第31号pp.74-82
- 工藤節子 (2007) 「経済活動の接触場面から日本語教育を考える—台湾の日経企業の調査より」愛知大学現代中国学会発行『中国21Vol.27』風媒社 pp.65-86
- 黄 文雄 (2006) 『日本人よ、自分の国に誇りを持ちなさい—世界モデルとしての日本論』飛鳥新社
- 新村 出 (2008) 『広辞苑』(第6版) 岩波書店
- 崎田永策 (2004) 「学生がいただく日本のイメージ」『日本語教育通し中国で発見した日本—日本では見えない日本』新風社 pp.219-226
- 千葉敦子 (1988) 『ちょっとおかしいぞ、日本人』新潮社
- 守崎誠一 (2002) 「日本人とアメリカ人の自己呈示行動—文化的自己観と個人主義/集団主義の影響」日本コミュニケーション学会発行『Human Communication Studies』Vol.30 pp.45-67
- Tony Buzan & Barry Buzan (1993) 『THE MIND MAP BOOK』BBC BOOKS [邦訳は、トニー・ブザン著、田中孝顕訳 (1996) 『これが驚異のマインド・マップ放射思考だ!!』騎虎書房]
- 中村 治 (1994) 『日本と中国、ここが違う』徳間書店
- 林 伸一 (2007) 「場の倫理と個の倫理—日本事情としての考察—」山口大学文学会発行『山口大学文学会志』第57巻 pp.1-15
- 林 伸一 (2008) 「『和』の文化と『差』の文化」日本比較文化学会発行『比較文化研究』No.82 pp.81-92
- 水谷 修 (1995) 「返事、曖昧さ」水谷修・佐々木端枝・細川英雄・池田裕『日本事情ハンドブック』大修館書店
- 向井沙綾 (2008) 「性格表現の言い換えによる効果—性格リフレーミング辞書の作成に向けて—」山口大学人文学部 林伸一研究室発行『エンカウンター研究』第1号 pp.52-109
- 迎 珠実 (2008) 「キャリア形成のための構成的グループエンカウンターの実践」山口大学人文学部 林伸一研究室発行『エンカウンター研究』第1号 pp.1-51
- 山口 翼 (2003) 『日本語大シソーラス—類語検索大辞典』大修館書店
- Ruth Benedict (1967) 『THE CHRYSANTHEMUM AND THE SWORD』[邦訳は、ルース・

(56)

ベネディクト著、長谷川松治訳（1972）『菊と刀—日本文化型』社会思想社]

李 景芳（2005）『日本人と中国人の永遠のミゾ』講談社

林 宇萍・林 伸一（2008）『『ほめる』使用頻度と『ほめられる』好感度IV～50～60代の同性・異性間の差異及び他の世代との比較～』山口大学人文学部国語国文学会発行『山口国文』第31号 pp.47-63

渡辺文夫（1995）『異文化接触の心理学—その現状と理論』川島書店

（キョ・ケイギョク）

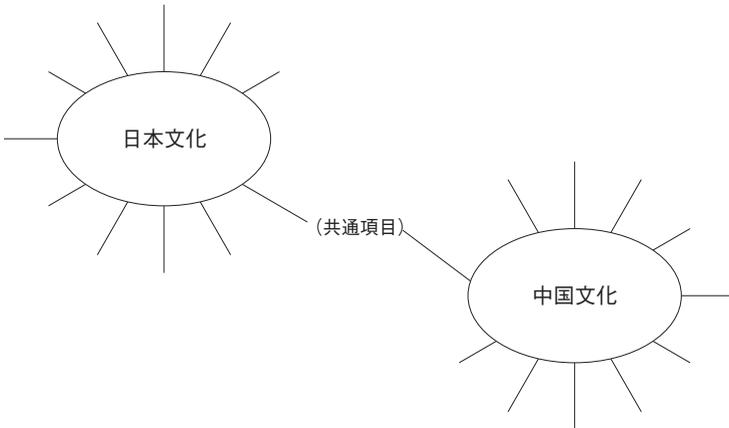
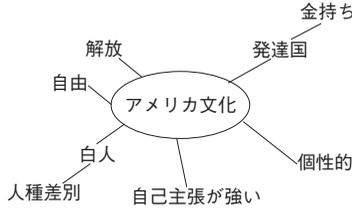


【別添資料】

日本文化と中国文化に関するマインドマップ調査

マインドマップとは、「一枚の紙の中にテーマ（あるいはアイデア）を描いて、それに関連するさまざまな情報や発想やアイデアを、枝を伸ばすように、放射線状に次々と描いていく方法である」（ブザン1993=1996）。次の例を参考しながら、「日本文化」と「中国文化」をテーマとして連想したことをご記入ください。

例：



ほかに気付いたことがあれば自由にご記入ください \_\_\_\_\_

---



---



---

性別（男・女） 年齢（10代・20代・30代・40代・50代・60代以上）

職業（学生・社会人） 国籍（ ）

ご協力ありがとうございました。